

【テーマを設定する】

・普段から給食が大好きな子どもたちだが、苦手なものの残飯が多かったりする姿が見られた。毎月食育活動を全クラスで実施し、食への意欲が高まる取り組みを行っている。また、特に幼児クラスは子どもたちの興味関心に合わせて食育活動を適宜変更し、より興味をもち食への意欲につながるような取り組みを行っている。さらに食への興味関心を引き出し、食材がどう作られたか、だれが作ったのか等を地域の農場でのさつまいも堀りやニジマスつかみでの魚を取って食べる体験(命をいただく経験)、野菜の栽培等の機会をすることで食への興味関心を深めるためこのテーマを設定する。

【活動スケジュール】

- 5月 ジャがいもを育ててみよう
- 7月 生き物を育ててみよう
- 11月 さつまいも堀りと農家さんとのふれあい
秋野菜カレーを作ろう
- 1月 命をいただく～ヤマメとのふれあいと命の学び～

活動① ジャがいもを育ててみよう ～5歳児～

●問いを考える

・「小さな種芋からどうしてたくさんのじゃがいもができるのだろう」「土の中でどのように育っていくのだろう」「水や太陽の光はどのくらい必要なのかな?」「おいしいじゃがいもを育てるには、どんなお世話が必要なんだろう」「植物にも命があるのかな?」といった問いをもとに活動を進める。

●環境をデザインする

- ・ポテトバック
- ・種芋
- ・じょうろ
- ・図鑑



●探究活動を実践する

- ・子どもたちはポテトバックに種芋を植え、水やりなど日々の世話を言いながら、成長の様子を継続して観察した。
- ・天気の良い日が続くとぐんぐん大きくなるじゃがいもの葉を目の当たりにし、野菜を育てるにはたくさん太陽の光が必要なんだということに気が付き、それを友達と共有しあう姿があった。
- ・毎日水やりをする中で、水やりを忘れた次の日には少し葉に元気がないことに気が付き「昨日水やり忘れちゃったよね」「お水ってお野菜にも大切なんだね」と栽培には水が必要不可欠であることに気づく姿が見られた。
- ・収穫時には土の中からじゃがいもが現れる喜びを味わい、育った実りに触れる経験と、大きさや数を比べる姿も見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・毎日世話を続けることの大変さを実感しながらも、世話を続けることで少しずつ成長していることを学んだように思う。
- ・水や太陽の光、土など植物が育つためには様々な環境が必要であることに気が付き、野菜の栽培などへの関心が高まり、他の野菜はどうやって育っていくのかと図鑑で知る姿に繋がっていった。
- ・「いただきます」に込められた意味を感じ、食べ物や命に感謝するだけでなく、作り手の大変さも感じる事ができた活動となった。



活動②生き物を育ててみよう ～5歳児～

●問いを考える

・近隣の保育園に遊びに行った際、エントランスにあるビオトープで様々な生き物が暮らしている様子に興味を持ち、「自分たちも生き物を育ててみたい」という思いが生まれた。子どもたちから「かになって育てられるのかな?」「どうしたら元気に育つのかな?」「ありの巣はどうやってできているのかな?」など、生き物の暮らしや成長についての問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・アリの飼育セット
- ・カブトエビ
- ・カニの飼育
- ・図鑑
- ・様々な食材



●探究活動を実践する

・子どもたちは、カニやカブトエビの飼育に挑戦し、水の量や住みやすい環境、食べ物などを考えながら世話や飼育を続けた。
・飼育を続けるなかで、カニ同士が共食いをしてしまう姿を目の当たりにし、「どうして食べてしまったのだろう」「おうちが狭かったのかな?」「食べ物が足りなかったのかな?」と環境や生態について考える姿が見られた。
・カブトエビは孵化を楽しみに準備を始めたものの、思うように孵化せず「水が違ったのかな?」「温かさが足りなかったのかな?」などと原因を考え、図鑑や保育者と一緒に調べる姿があった。
・ありの巣の観察キットを用いて、巣ができていく様子を継続的に観察をしながら、「ありがたい食べ物は何だろう?」と疑問をもち砂糖や葉っぱ、はちみつなど様々なものを置いて反応を比べるなど、自分たちなりに調べたり試したりしながら探究を進めていった。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を振り返る中で、「生き物によって食べるものや住みやすい場所が違うことが分かった」「生き物を育てるのは楽しいけれど、毎日お世話をしたり環境を考えたりすることが必要だとわかった」「好きな食べ物を試してみるのが楽しかった」などの声があがった。
・実際に飼育や観察を行う中で、命ある生き物にはそれぞれに合った環境やかかわり方があることに気付く、生き物を大切にしようとする気持ちや、疑問をもって調べたり試したりする探究心が育まれた。
・成功や失敗の両方を経験することで、自分たちで考え、工夫しながら関わっていくことの大切さを学ぶ機会となった。



活動③さつまいも掘りと農家さんとのふれあい ～5歳児～

●問いを考える

・日頃給食や家庭で親しんでいるさつまいもがどのように育つのか興味を持ち、地域の農家さんの畑に出かけることを楽しみにしていた。「さつまいもは土の中でどんな風にできるのかな?」「じゃがいもと何か違うところはあるかな?」「おいしいさつまいもを育てるには何は必要なのだろう」など、さつまいもの成長や農家さんの仕事への疑問を問いとして活動する。

●環境をデザインする

- ・近隣の農家さんにさつまいも掘体験に行く
- ・スコップ
- ・手袋
- ・電車を利用して農園まで行く



●探究活動を実践する

・地域の農家さんの畑を訪れ、実際に話を着たり畑の様子を見たりしながらさつまいもの収穫の仕方について学んだ。
・実際に土に触れながらさつまいも掘りを行うと、「まだ繋がっているよ」「ここにもあるかもしれない」と友達と声を掛け合いながら、つるをたどったり周囲の土を優しく掘ったりと、自分たちなりに工夫をして収穫を楽しんでいた。
・大きさや形の違うさつまいもを見つけるたびに驚きや喜びを共有し、土の中で育つ命を不思議さを実感していた。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を振り返る中で「土の中でこんなに大きくなるなんてびっくりした」「保育園でじゃがいもを育てたときは小さいにばかりだったよね」「さつまいも掘るの大変だったね」「食べるものができるとたくさん時間がかかるんだね」などという声があがった。
・実際に畑で収穫を体験し、農家さんと触れ合うことで、食べ物は自然の力だけでなく、育てる人の努力や工夫によって大切に育てられていることに気づくことができた。
・命の育み、いただくことへの感謝の気持ちが芽生え、食べ物を大切にしようとする意識に繋がる活動となった。



活動④秋野菜カレー作り ～5歳児～

●問いを考える

・さつまいも堀りで自分たちが収穫してきたさつまいもを見ながら「どんな味がするのかな?」「どんな料理にしたらおいしいかな?」「火を通すとどうなるのかな?」など収穫した食材への興味や期待が膨らみ、「野菜はどうやって料理になるのかな?」「おいしいカレーには何が必要かな?」などの問いをもとに活動を進める。

●環境をデザインする

- ・自分たちで掘ったさつまいもでカレーづくりをする
- ・鍋
- ・包丁
- ・秋野菜
- ・調味料



●探究活動を実践する

・収穫したさつまいもをはじめ、秋の野菜に実際に触れながら、形や硬さ、重さ、匂いなどを感じ「土のおいがする」など気づいたことを友達と伝えあっていた。
・調理では、野菜を洗ったり、皮の様子を観察したり、包丁を使って切ってみたりしながら、食材が少しずつ料理へと変化していく過程に興味をもって関わっていた。
・鍋の中で野菜が煮えてやわらかくなったり、香りが広がったりする様子を観察し、「色が変わってきた」「いい匂いがしてきた」など五感を使って発見を楽しんだ。
・友達と役割分担をしながら協力して調理を進め、自分たちで育てたり収穫したり食材は料理になる喜びを味わった。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を振り返る中で「自分たちで掘ったさつまいもはいつもよりおいしく感じた」「野菜を食べるためにもたくさんの準備が必要なのが分かった」「みんなでつくってみんなで食べるとおいしいね」「他のクラスのお友達や先生たちにも食べてほしい」などの声があがった。
・収穫した食材を自分たちの手で調理師し、食べる経験を通して、食べ物を育てる人、調理をする人がいて、自分たちが食べることができるということにも気づく活動となった。
・命をいただくことへの感謝だけでなく、生産者さんや調理をしてくる人への感謝の気持ちから食べ物を大切にしようとする意識がさらに育まれる機会となった。



活動⑤いのちをいただく～ヤマメつかみと命の学び～

●問いを考える

・日頃食べている魚がどのような姿をしていて、どのように自分たちの食事に繋がっているのかに興味を持ち奥多摩の川に生息するヤマメと触れ合う活動を行った。
「ヤマメはどこに住んでいるのかな?」「どんなものを食べているのかな?」「海にも行くのかな?」「魚の体はどうなっているのかな?」「いのちをいただくというのはどういうことだろう」などの問いをもとに活動を進める。

●環境をデザインする

- ・ヤマメ
- ・水槽
- ・タライ
- ・BBQコンロ
- ・東京森と市庭のスタッフに魚をつかまえる方法を教えてもらう



●探究活動を実践する

・奥多摩の川から持ってきていただいたヤマメを実際に観察し、体の模様や口の形、オスとメスの違い、泳ぐ様子などをじっくり見ながら、「模様と色がきれいだね」「泳ぐのはやいね」など気づいたことを友達と伝え合う姿が見られた。
・その後ヤマメのつかみ取りに挑戦し、生きた魚の力強さやぬくもり、動くの速さに驚きながら、命の存在を直接感じる姿が見られた。
・さらに、ヤマメを解体する様子を見学し、体の中のつくりや心臓が動いている様子を目の当たりにすることで「心臓ってこんなに小さいんだ」「生きているってことだよ」と真剣な表情で見つめていた。
・解体した魚に卵が入っており、「お魚になれなかった卵だね」などと子どもたちらしい感性で友達に感じたことを伝え合う姿が見られた。
・ご飯を食べる前になんて言う?という問いに「いただきます」と答え、いただきますってどういうことかな?と問われると、「命をいただくってことなんだね」と気づく姿が見られた。



●振り返りを踏まえた気づき

・「魚も心臓が動いていて生きていることが分かった」「食べる前は魚も生きていたんだね」「私も魚だったら誰かに食べられるってことだよ」「かわいそうだなと思ったけど、残さずに食べようと思った」「いただきますには大事な意味があることが分かった」などの声があがった。
・実際に生きたヤマメに触れ、体のつくりを知り、食べるまでの過程を経験したことで、自分たちが食べているものには一つ一つ命があることを実感することができた。
・食べ物は命をいただいて成り立っていることや、その命を無駄にしないよう感謝していただくことの大切さに気づき命への尊重や食への感謝の気持ちがより深まる活動となった。

